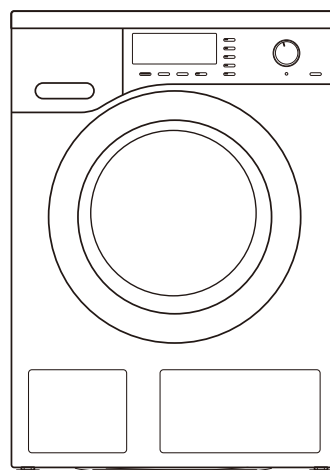


W1 洗濯機・T1 衣類乾燥機 設置・施工手順書

W1 洗濯機

WCI660 WPS

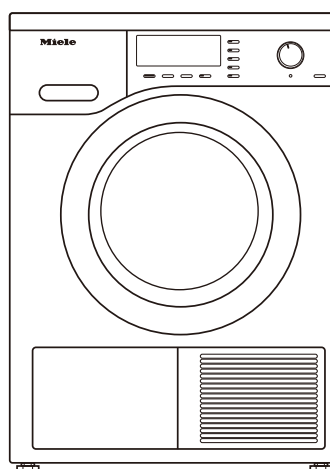
WCI660 WPM は、50Hz（東日本用）の設定で出荷されています。60Hz 地域では、設置時に「設定」メニューの「周波数」で 60Hz を選択してください。



T1 衣類乾燥機

TCJ680 WP

50Hz/60Hz 共用



- 本手順書では、人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。
- 設置・施工において、本手順書に従わなかったために生じた故障・事故などについては責任を負いかねます。

お客様による設置工事は危険です。建物を傷めたり、ケガのおそれがあります。
据付設置は、必ずお買い求めの販売店または指定サービス店にご依頼ください。

ミーレ・ジャパン株式会社

〒153-0063 東京都目黒区目黒1-24-12オリックス目黒ビル4階
電話 (03) 5740-0030

商品の詳細・ご購入は、ミーレオンラインページ
<http://store.miele.co.jp/>

またはミーレ・カスタマーサービス（通話無料）までお問い合わせください。

ミーレ・カスタマーサービス

0120-310-647 (フリーダイヤル)

■受付時間 月～金 9：00～17：00（土日・祝祭日休業）

WCI660-TCJ680-Ver.1.0-221222

安全上のご注意

本手順書では、次のマークの箇所で人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある」内容です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある」内容です。



警告



実行しなければならぬ内容です。

- 機器はコンクリートの床面に設置するか、木製フロアの場合はコンクリートスラブに密着している、もしくは根太にて頑丈に補強した床面に設置してください。
- 設置床面は水平・平坦にし、後で本体を手前に引き出せるようにしておいてください。
- 本体の金属部分が、家屋の金属板や流し台のステンレス板に電氣的に接触しないようにしてください。漏電した場合、火災の原因になります。(法令:電気設備の技術基準第167条・平成13年)
- コンセント、止水栓、排水管は設置後にユーザーが容易にアクセスできる位置に設けてください。
- 電源工事や接地工事は電気設備技術基準に準じて行ってください。本手順書の「電気工事」の項を参照してください。
- 電源は、単相200V 専用コンセント アース付の専用回路を用意し、D種接地工事を必ず行ってください。
- 万一の漏電事故時の安全確保のために、漏電しゃ断器を必ず取り付けてください。(法令で規定)
- 給・排水工事はすべて水道法、建築基準法、および貴都市の条例、規定に準じて行ってください。
- 水道水圧:作動水圧が0.1MPa~1MPaの範囲であることを確認してください。
- 止水栓は吐水口が下向きになるように設けてください。
- 排水管は耐熱塩ビ管HTを使用してください(HT40相当)。本製品はポンプによる強制排水方式(揚程1m)のため、排水管はFLから200mm以上立ち上げてください。
- 給湯接続はしないでください。



してはいけない内容です。

- 本製品は家庭用機器です。業務用には使用しないでください。
- 木造住宅の2階以上には設置しないでください。振動音が大きくなる要因になります。
- 電源コードを切断、および直結することは絶対にしないでください。電源コンセントはそれぞれの機器に単独で、専用に設けてください。
- 本製品は寒冷地仕様ではありません。凍結の恐れがある場所(室温0℃以下)には設置しないでください。
- 給湯器などによる温水接続はしないでください。
- 水場や浴室など、湿気の多い場所に設置しないでください。(感電・火災のおそれ)
- 直射日光が当たる場所、窓や換気扇のない場所に設置しないでください。

設置パターン

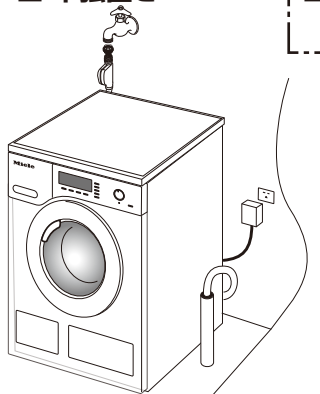


●本製品は「消防法 告示第一号（対象火気設備等及び火気器具等離隔距離に関する基準）」に適合しております。
建築物の可燃物等からの距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。

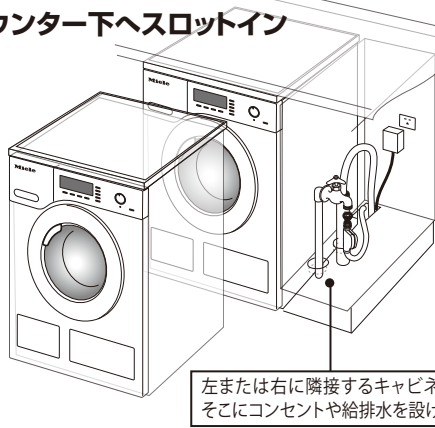
消防法 基準適合 組込形 可燃物からの離隔距離(mm)			
上方	側方	前方	後方
0	0	(開放)	0

洗濯機単体の設置

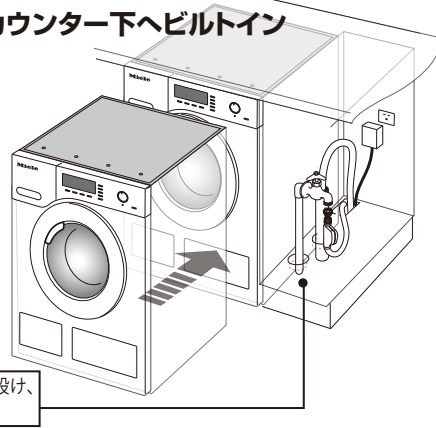
■ 単独置き



■ カウンター下へスロットイン



■ カウンター下へビルトイン



機器の天板を装着したまま、カウンター下に押し込むことができます。

機器の天板を外してビルトインカバー（別売 UBS W1/G）を取り付けることで、最小限のスペースにぴったりと組み込むことができます。

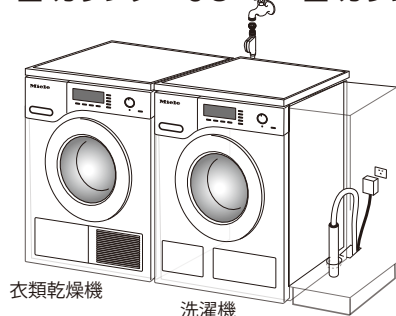
洗濯機と衣類乾燥機の並列設置

衣類乾燥機（左開き）を左側、洗濯機（右開き）を右側に設置します。
給排水設備は、洗濯機の右側に設けます。衣類乾燥機の左側に設けると、給排水ホースが届きません。

■ カウンターなし

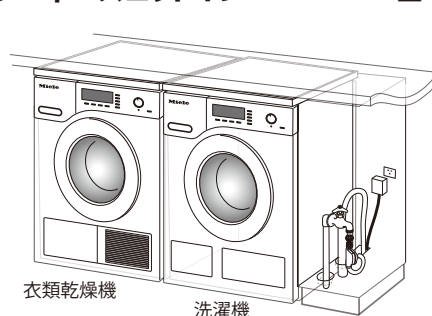
■ カウンター下へスロットイン

■ カウンター下へビルトイン



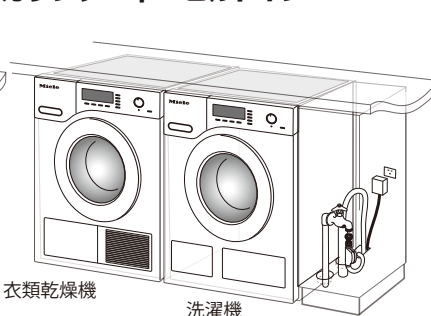
衣類乾燥機

洗濯機



衣類乾燥機

洗濯機



衣類乾燥機

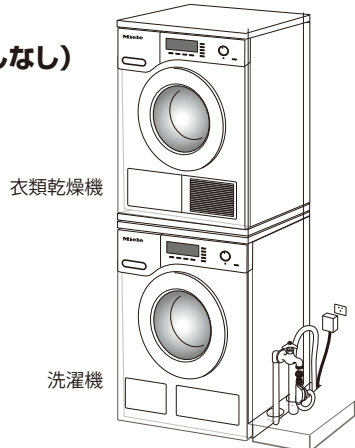
洗濯機

機器の天板を装着したまま、カウンター下に押し込むことができます。

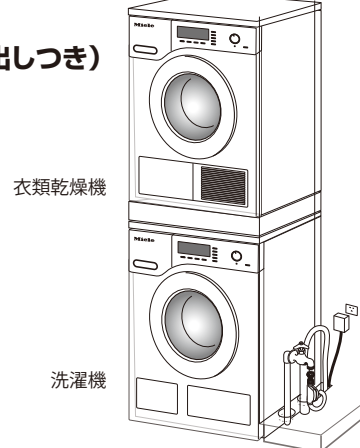
天板を外して別売のビルトインカバー（衣類乾燥機用 UBS T1/G、洗濯機用 UBS W1/G）を取り付けることで、最小限のスペースにぴったりと組み込むことができます。

洗濯機と衣類乾燥機の2段積み

■ 2段積みキット WTV501（引き出しなし）の場合



■ 2段積みキット WTV511（引き出しつき）の場合

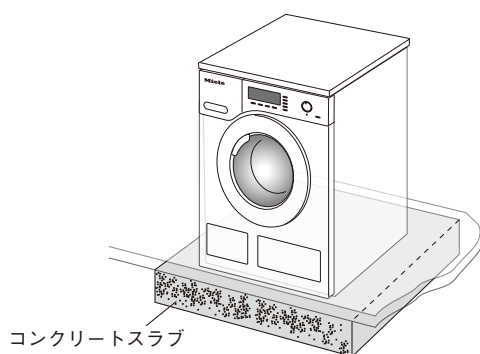


設置床面の確認/床の補強

必ず事前に床面の強度を確認し、しっかりとした水平な床に設置してください。

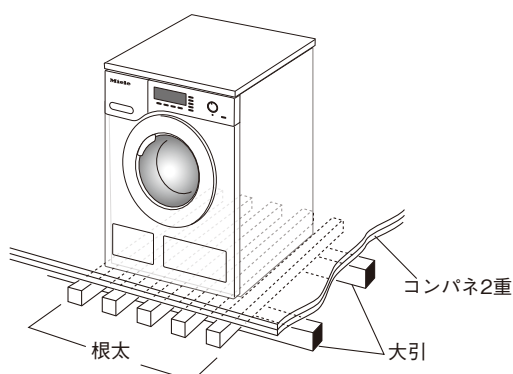
■コンクリートの床面の場合、下記の補強は不要です。

■床下のコンクリート補強



洗濯機を設置する床は、床下が直接コンクリートスラブに密着しているか確認してください。ユニットフロアなど、床下に空間がある場合は、設置する部分をコンクリートによって補強してください。

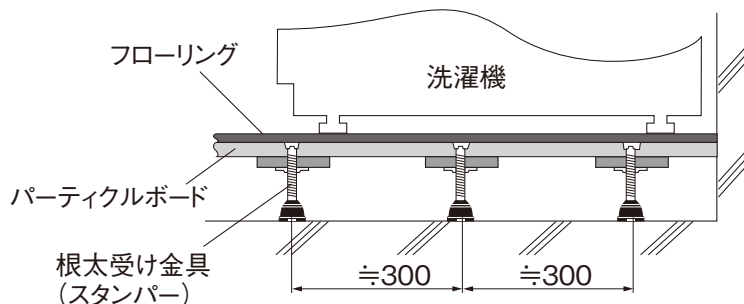
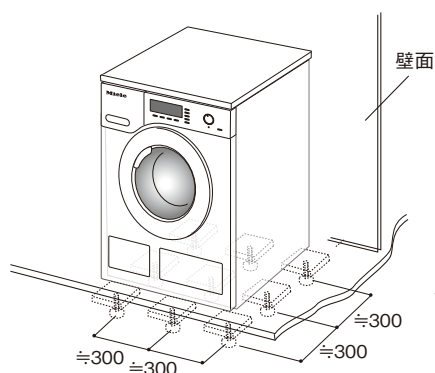
■木造床下を補強する場合



直接コンクリートで補強するのが困難な場合、左図のように根太5～6本+コンパネ2重張で補強してください。この時、本体の脚真下に根太がくるようにしてください。

※補強しても、木造住宅の2階以上には設置しないでください。

■置床の場合



※いずれの床の場合も、水準器で水平をご確認ください。

※いずれの床の場合も、水準器で水平をご確認ください。

※本体の下をカーペットなどでふさがらないでください。

※本体の周りに糸くずやホコリなどが蓄積しないようにしてください。

キャビネットの加工

- カウンター下への設置の場合、右または左（並列設置の場合は必ず右）にキャビネットを設けて、そこにコンセント、給排水設備を収納してください。

必ず650mm以上の奥行きを設けてください。

キャビネットの内寸：

幅200mm以上、高さ600mm以上、奥行き500mm以上

床面からカウンター底面までの高さ：

スロットイン（天板装着）の場合：850mm以上

ビルトイン（天板を外しビルトインカバー取付）の場合：820mm以上

601（ドア厚み36mmを含まない）

本体の高さ

天板装着の場合：850（+8/-2）mm

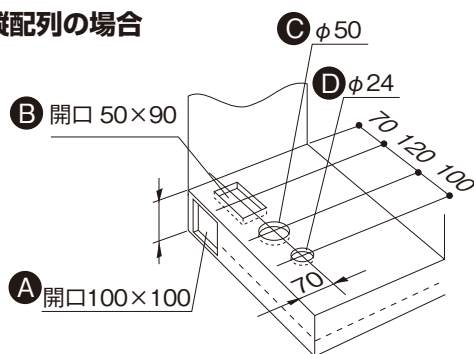
天板を外しビルトインカバー取付の場合：
820（+8/-2）mm

並列設置の場合は1210以上

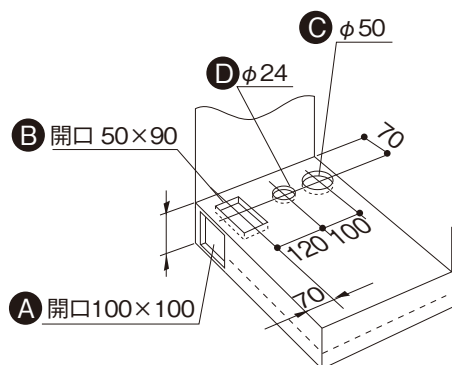
- メンテナンスなどで機器を前に引き出せるよう設置床面Aと機器前床面Bは同レベルに仕上げてください。

隣接キャビネットの加工例

縦配列の場合



横配列の場合



- A 給・排水ホース・電源コード通し穴（台輪）
- B 給・排水ホース・電源コード通し穴（底板）
- C 排水管通し穴
- D 給水管通し穴

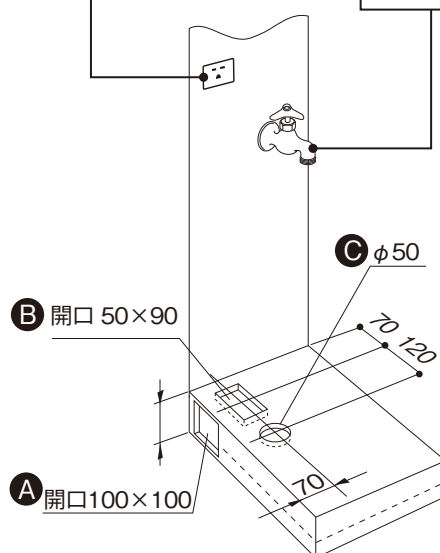
止水栓をキャビネット奥の壁面に設ける場合

●コンセント

止水栓の吐水口より高い位置にあること

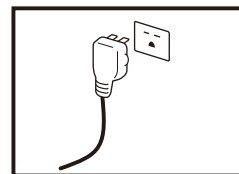
●止水栓

・ユーザーが容易に操作できること
・コンセントより下で、かつ給水ホースが最低200mmは真っすぐに下がるスペースがあること



電気工事

- 電気工事、アース工事は、すべて電気工事士の有資格者が、電気設備の技術基準に準じて行ってください。
- コードが下向きに取り付けられるよう、図の向きでコンセントを用意してください。



■ブレーカー付单相200V・15A専用回路(アース付)

露出型 パナソニック WK3012(露出型)  相当品

埋込型 パナソニック WN1112K(埋込型)  相当品

※D種接地工事を必ず行ってください。

■漏電しゃ断器について



万一の漏電事故時の安全確保のために、漏電しゃ断器の設置が必要です。

※主幹に漏電しゃ断器が設けられている場合には、新たに漏電しゃ断器を設置する必要はありません。

推奨品

住宅分電盤用小型漏電ブレーカー

定格電流は15A・感度電流30mA(AC100-200V両用)

※既設分電盤の分岐安全ブレーカーHB型と同一サイズなので、そのまま取り替えることができます。

- 本製品を設置した後も、ユーザーが電源プラグに簡単にアクセスできる状態にしてください。
- コンセントは、水滴がかかるおそれのある場所を避けてください。止水栓が近くにある場合、止水栓の吐水口より高い位置に設けてください。
- 本製品をマルチソケットや延長コードに接続すると、コードに負荷がかかり過ぎる恐れがあります。安全上の理由から、延長コードやマルチソケットを使用しないでください。
- 自動的に電源が切れるタイマーなどの装置に本製品を接続しないでください。

水道工事

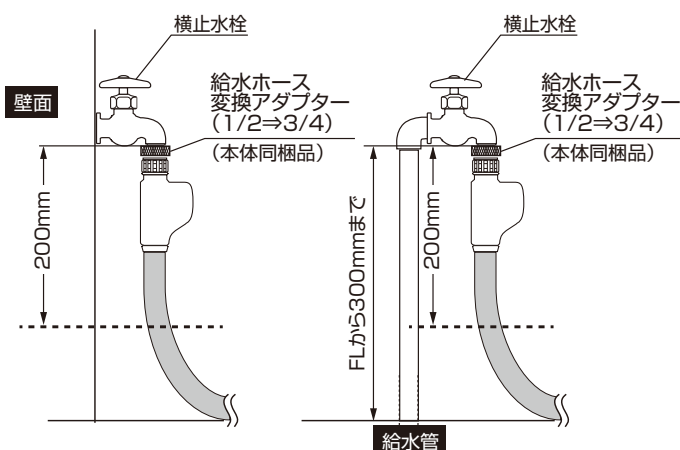
■給水圧  0.1MPa～1.0MPaの範囲内である必要があります。水圧が1MPaを超える場合は、減圧弁を設置する必要があります。

■止水栓(洗濯機用)

- 前述の「キャビネットの加工」を参考に、壁面に取り付けるか、床面からの給水管に取り付けてください。
- ユーザーが容易に操作できる位置に設けてください。
- 止水栓から給水ホースが最低200mmは真っすぐに下がるようにしてください。止水栓から200mm未満の位置で給水ホースが曲がると給水不良の原因となる場合があります。
- 吐出口は下向き、呼び径1/2または3/4平行おねじを用意してください。
※呼び径3/4の場合は、給水ホース変換アダプター(本体同梱品)を使用せず直接接続してください。

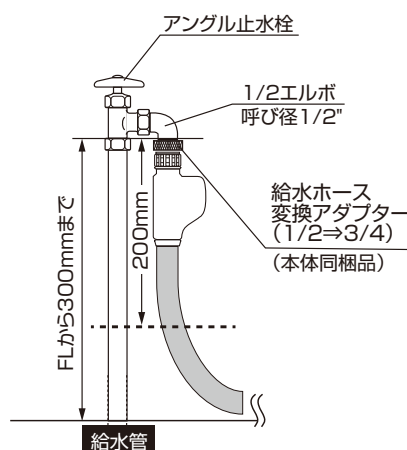
横止水栓

1/2カップリング付横止水栓(カクダイ 7030-13/三栄水栓製作所 JY30J13相当)
※接続の際、カップリングは取り外します。



アングル止水栓

1/2アングル止水栓(TOTO THY226U相当)
※接続の際、呼び径1/2の平行おねじエルボを使用します。(リビラック G1/2NFL13相当、又はミーレ品番97250218)

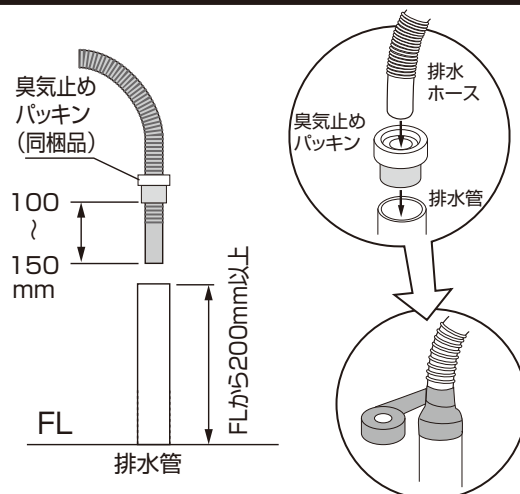


■排水管(洗濯機のみ排水する場合)

- 前述の「キャビネットの加工」を参考に、床面から耐熱塩ビ40φ (HT40相当) の排水管を用意してください。

- 本製品はポンプによる強制排水方式(揚程1m)のため、FLから200mm以上立ち上げてください。

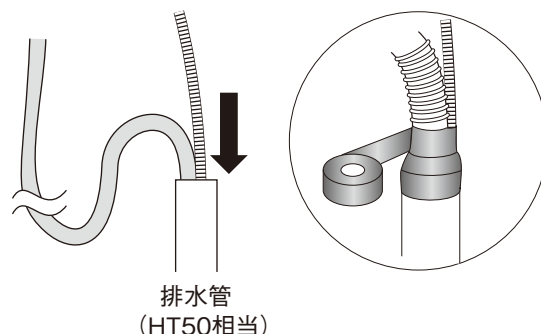
※ 排水管には、機器設置時に右図のように臭気止めパッキンを使って排水ホースを接続します。



■排水管(洗濯機と衣類乾燥機を排水する場合)

- T1衣類乾燥機は、乾燥時に生じる水を本体内の排水タンクに集めることができます。その場合、井水乾燥機用を排水接続する必要はありません。

- T1衣類乾燥機は、排水管に接続することもできます。その場合、衣類乾燥機の排水ホースを洗濯機の排水ホースと一緒に、HT50相当の排水管に接続します。詳細は、後述の「T1衣類乾燥機の排水」を参照してください。



設置場所への運搬

- 機器を運搬する前に、機器背面のリッド(天板突出部)が固定されていることを確認してください。固定されていないと、リッドが外れてけがや物的損害につながるおそれがあります。
- 前脚と、機器後部のリッド(天板突出部)を持って運搬します。

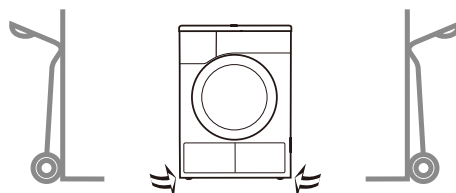
⚠ 衣類乾燥機の運搬時の注意

- 誤った移動方法によるけがや物的損害の恐れがあります。衣類乾燥機を傾けると、けがや物的損害の危険があります。運搬中は衣類乾燥機を安定させてください。



衣類乾燥機を運搬する際、基本は衣類乾燥機を立てた状態で運搬して下さい。

衣類乾燥機を横にして運搬しなければいけない場合、必ず左または右側面を下にしてください。



衣類乾燥機を立てた状態で手押し車で運ぶ場合、必ず**左または右側面**を手押し車に寄せた状態にしてください。

⚠ 衣類乾燥機の設置後の休止時間

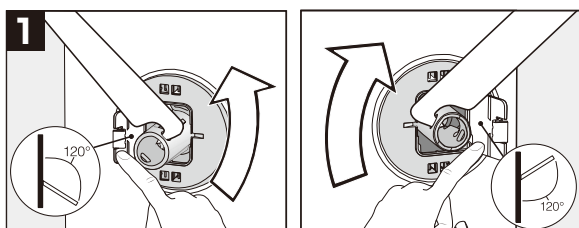
- 本製品の設置後に電源を入れるのが早すぎると、損傷の恐れがあります。これによってヒートポンプに損傷を引き起こす危険があります。
- 本製品の設置後、電源を入れる前に最短でも1時間待ってください。

W1 洗濯機 輸送用ボルトの取り外し

- 本製品は輸送・運搬のために洗淨ドラムを固定してあります。
設置前に必ず、この輸送用固定ボルト 2ヵ所 を取り外してください。

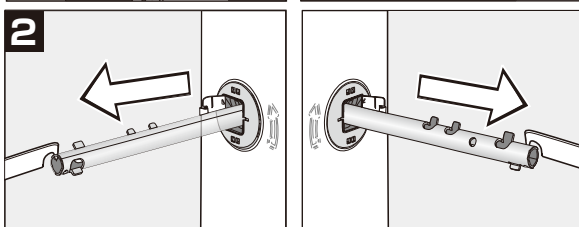
⚠ ボルトを外さずに機器を稼働させると、本体が動くことがあります危険です。また故障の原因になります。

- 輸送用固定部品なしで本体を運搬しないでください。
ボルトを外して移動させた場合、ドラム損傷の要因となります。

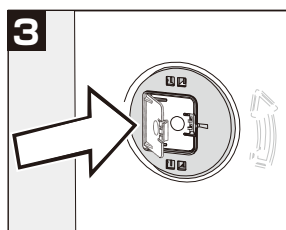


カバーを開き、付属のオープンスパナを使用して、輸送用ボルトを90°回します。

右:時計方向
左:反時計方向



スパナのカギ部分を使って輸送用ボルトを引き出します。



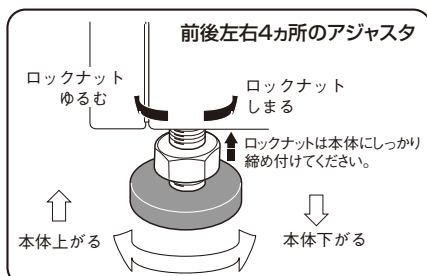
カバーが所定の位置にはまるまでしっかりと押し込みます。

※カバーがはめ込まれていないと、端面などでけがをするおそれがあります。

※輸送用ボルトは転居などの際に必要となります。大切に保管してください。再度取り付ける手順は、取扱説明書の「設置」の章を参照ください。

水平の確認(異常振動を防ぐために)

- 本体の水平がとれていない場合、脱水時の振動や異音、がたつきの原因になります。
- カウンター下への設置の場合、カウンター下に押し込む前に水平の確認をしてください。

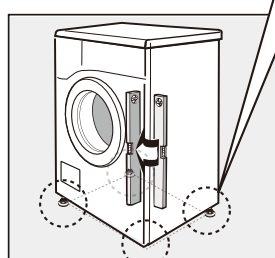


- 本体4箇所のアジャスタ脚で高さを調整し、水準器で床の水平レベルと、本体が傾いていないかを再度確認してください。

- 調整後、必ずロックナットを本体に締め付けてください。



ロックナットを締め付けないと、振動の原因となります。



- カウンター下に本体を押し込んだ後も、水準器で床の水平レベルと、本体が傾いていないかを再度確認してください。

ビルトインカバーの取り付け

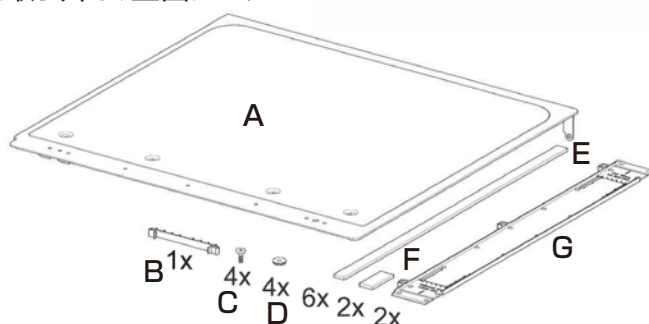
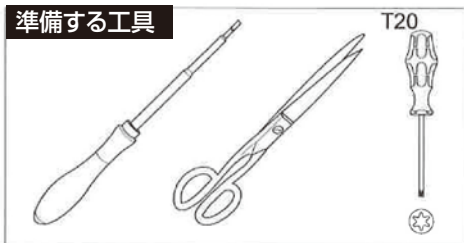
ビルトイン設置
パターンのみ

ビルトインカバーUBS W1/G(別売)

W1 洗濯機

ビルトイン設置する場合は、必ず機器の天板を取り外し、上面にビルトインカバーを取り付けてください。

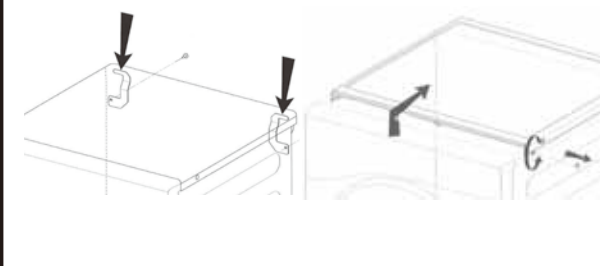
準備する工具



A ビルトインカバー / B アダプター / C 固定ビス (前)
D ワッシャー / E 防振シール (長) / F 防振シール (短)
G スライダー※

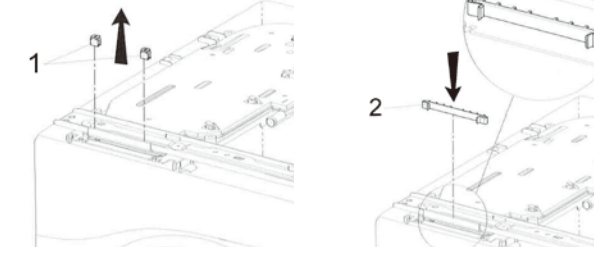
※機器の設置状況に応じ機器の下に敷いて使用して下さい。

1



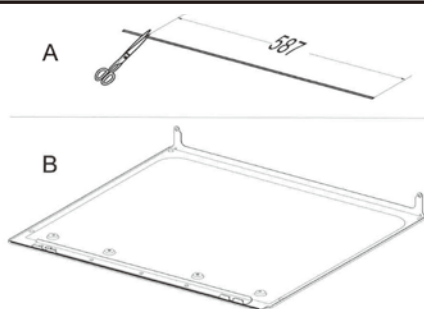
本体後部の天板固定金具左右2箇所を取り外します。
(ビスは後でビルトインカバーを固定する際に使用します。) 天板両サイドの目隠しキャップに穴を開け、ビスを緩め押し込んで、天板を外します。

2



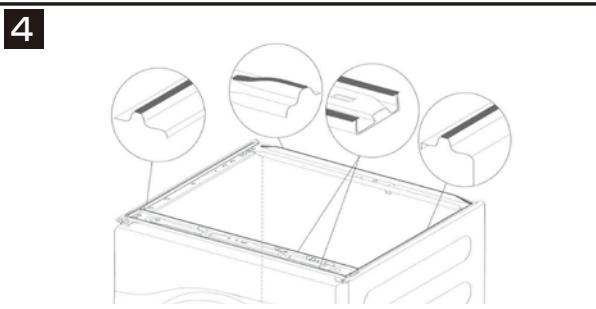
洗剤コンテナ上部にあるホルダーを取り外して、アダプターを取り付けます。

3



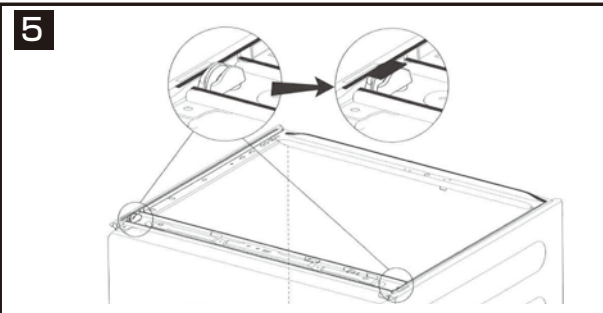
長い防振シールをカットし、ビルトインカバー前部に貼り付けます。

4



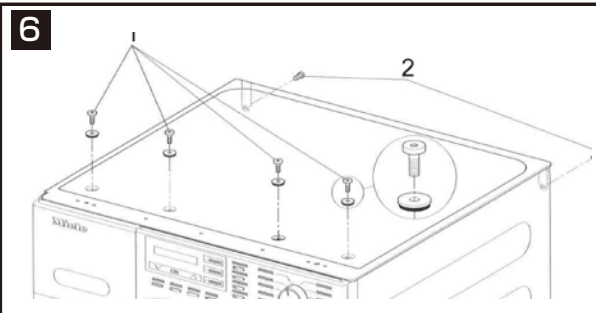
本体の図の位置に防振シールを貼り付けます。

5



短い防振シールを本体左右2箇所のドラムサスペンションスプリングホルダーに貼り付けます。

6



ビルトインカバーの前方4カ所をビスとワッシャーで固定し、後部2カ所を1で取り外したビスで固定します。

ビルトインカバーの取り付け

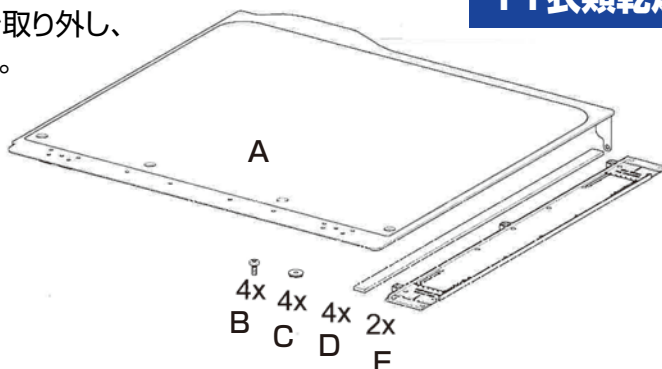
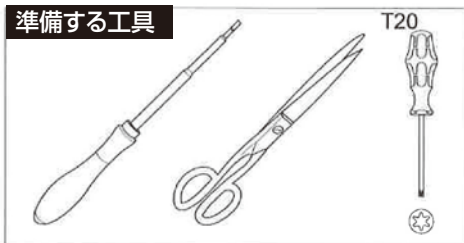
ビルトイン設置
パターンのみ

ビルトインカバーUBS T1/G(別売)

ビルトイン設置する場合は、必ず機器の天板を取り外し、
上面にビルトインカバーを取り付けてください。

T1衣類乾燥機

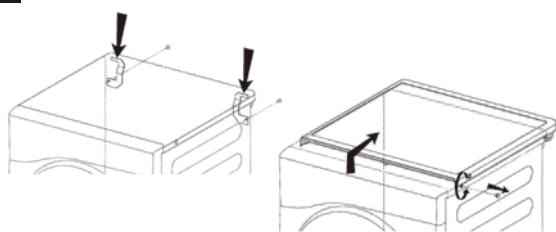
準備する工具



A ビルトインカバー / B 固定ビス / C ワッシャー
D 防振シール / E スライダー※

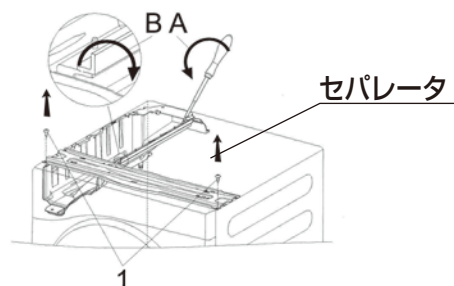
※機器の設置状況に応じ機器の下に敷いて使用して下さい。

1



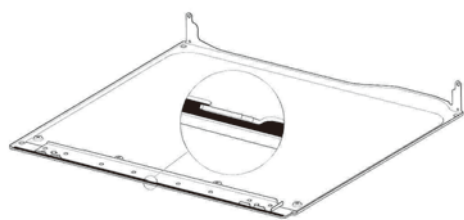
本体後部のビス左右2箇所を取り外します。(ビスは後でビルトインカバーを固定する際に使用します。)天板両サイドの目隠しキャップに穴を開け、ビスを緩め押し込んで、天板を外して下さい。

2



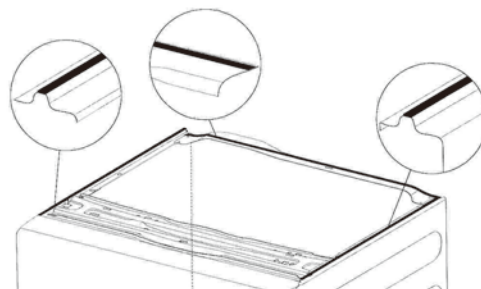
本体前部の左右のビス(1)を外します。同時にセパレータを固定しているフック(6箇所)を外し、セパレータを右に倒します。

3



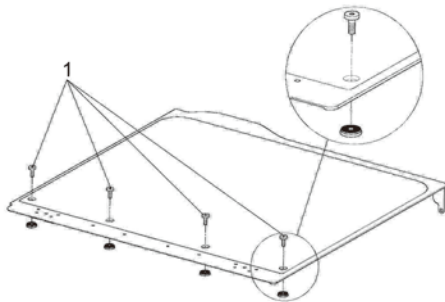
ビルトインカバーの裏面の図の位置に、防振シールを貼り付けます(中央フックの下をくぐらせます)

4



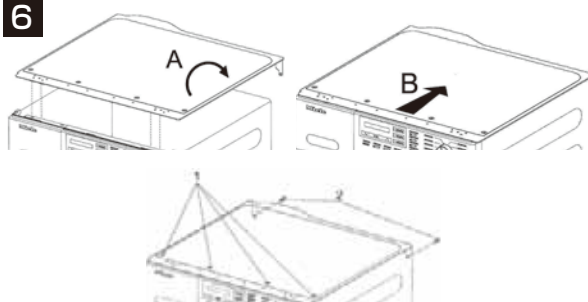
本体の図の位置に防振シールを貼り付けます。

5



ワッシャーのシール側をビルトインカバー側にして表側から固定ビス(B)を差し込みます。

6



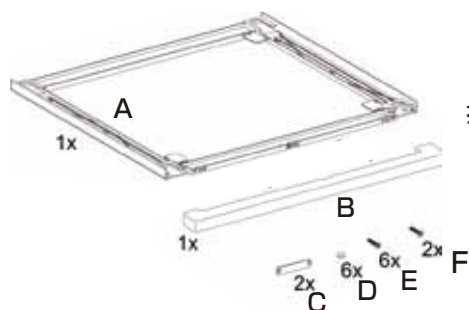
ビルトインカバーを図のようにスライドさせて取り付け、前方4カ所を固定し、後部2カ所を で取り外したビスで固定します。

2段積み

(2段積みキットWTV501の場合) -1

2段積み設置
パターンのみ

WTV501

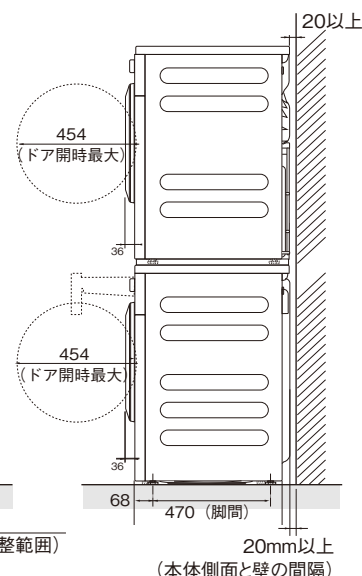
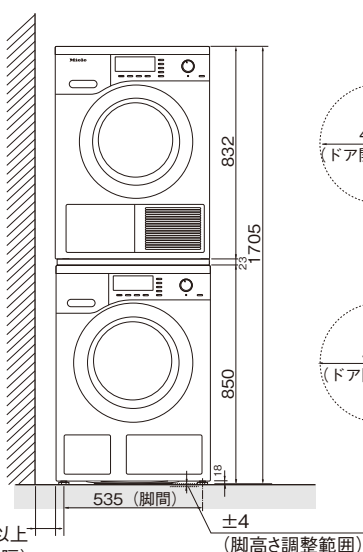


A WTV501本体／B 前面化粧カバー
C 脚固定用プレート
D シーリングリング／E 固定ビス (天板用/T20)
F 固定ビス (脚固定用プレート用)

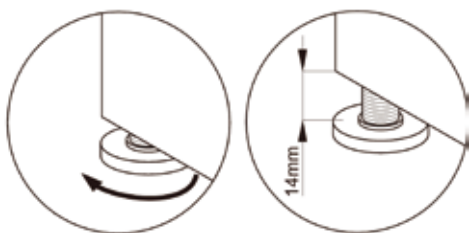
T1
衣類乾燥機

W1
洗濯機

20mm以上
(本体側面と壁の間隔)

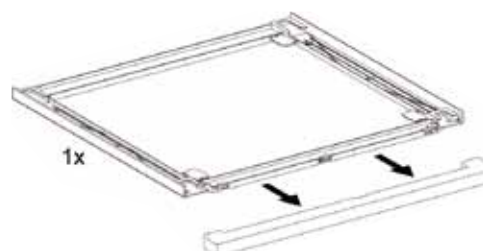


1



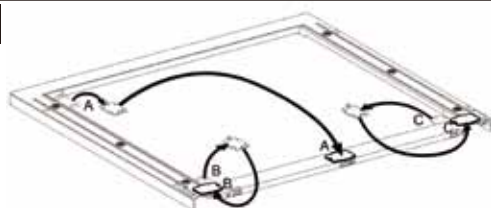
乾燥機の脚高さを14mmに調節します。

2



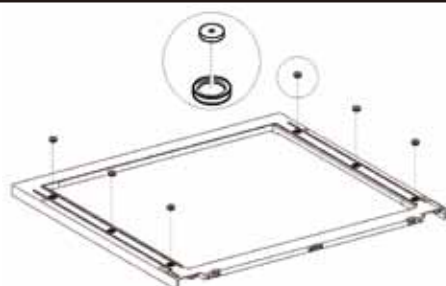
2段積みキットの前面化粧カバー(B)を外します。

3



2段積みキットのA,B,Cのプレートを、図のように裏返して取り付けます。

4



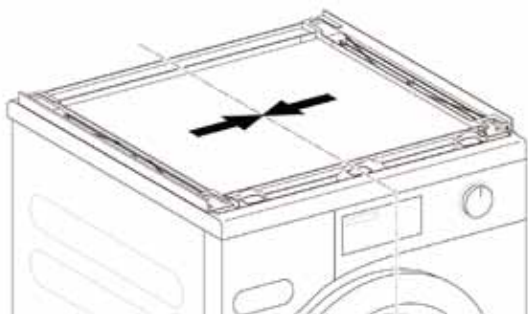
2段積みキットの6箇所の孔にシーリングリング(D)を貼ります。

5



2段積みキットを裏返して、洗濯機の天板にのせます。

6



2段積みキットを洗濯機本体の中心に併せ、**3**で取付けたプレートが洗濯機のリップエッジに接するまで、キットを前に移動させます。

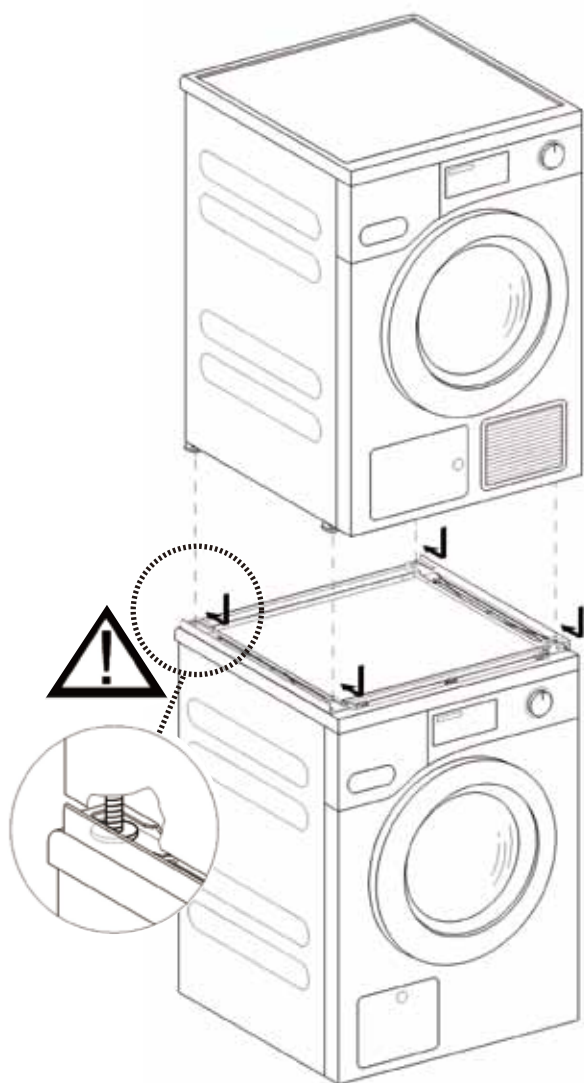
7



図のように2段積みキットの6箇所を附属の固定ビス(E)で固定します。

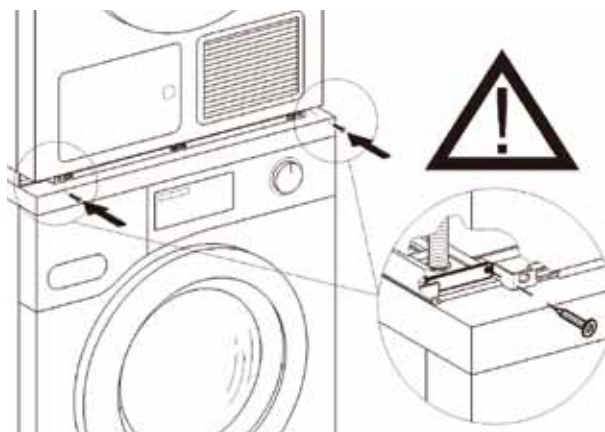
8

矢印の方向へ乾燥機の脚を2段積みキットのホルダーに滑らせながら設置します。



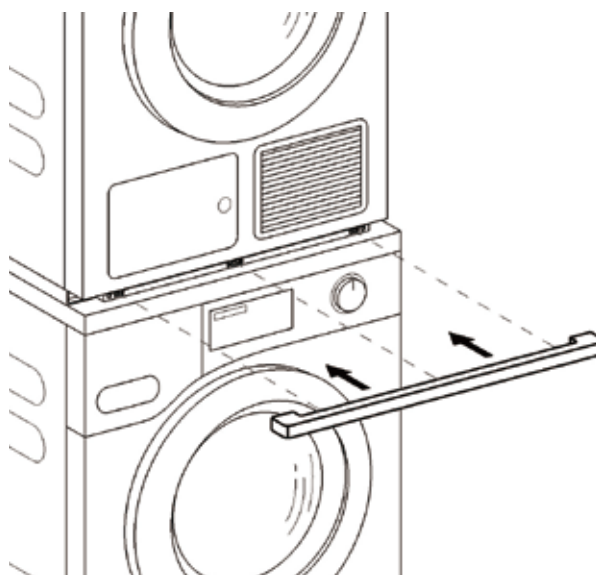
脚が図のようにホルダーに納まるように設置します。

9



乾燥機の左右前脚箇所に、脚固定用プレート(C)を固定ビス(F)で固定します。

10



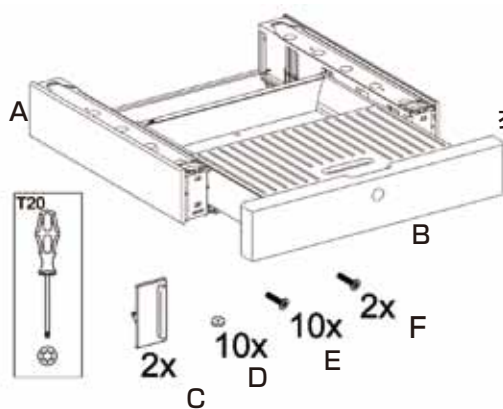
前面化粧カバー(B)をはめ込んで完成です。

2段積み

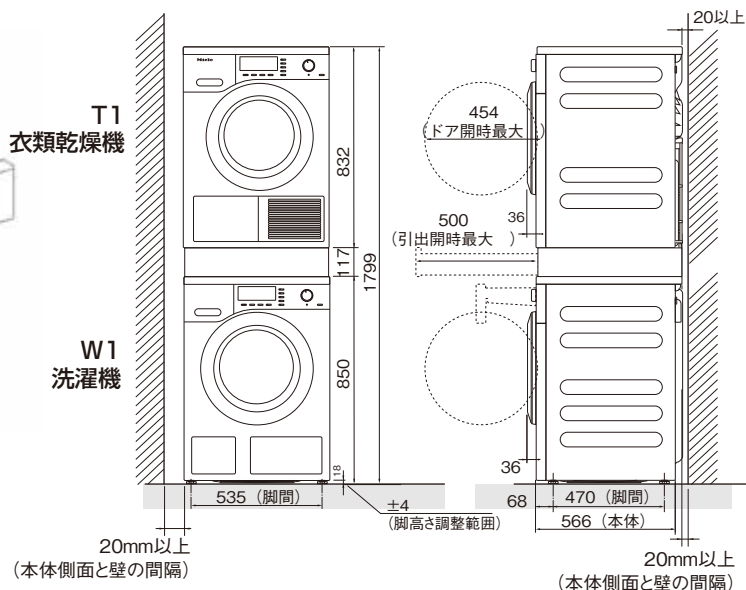
(2段積みキットWTV511の場合)-1

2段積み設置
パターンのみ

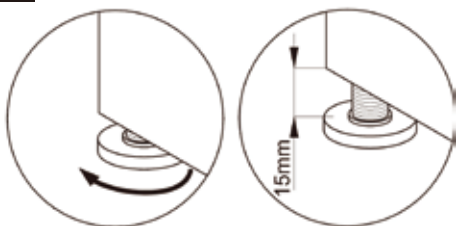
WTV511



A WTV511本体/B 収納引出し
C 化粧プレート
D シーリングリング/E 固定ビス (天板用/T20)
F 固定ビス(化粧プレート用)

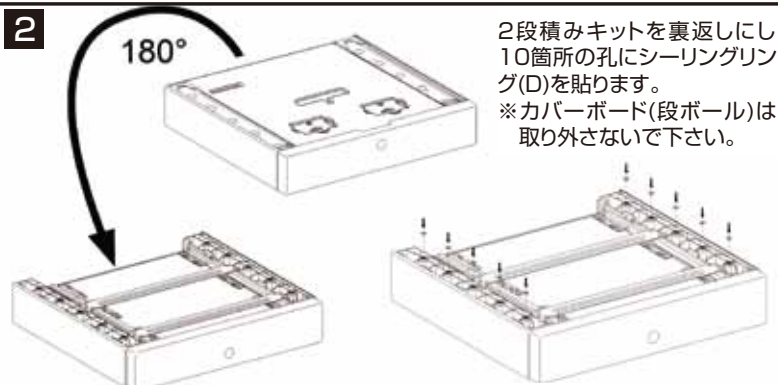


1



乾燥機の脚高さを15mmに調節します。

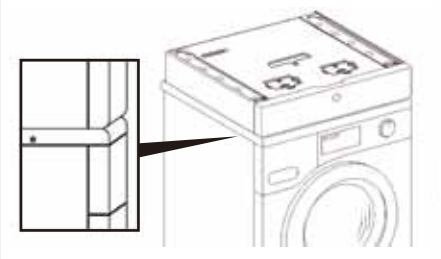
2



2段積みキットを裏返しにし、
10箇所の孔にシーリングリング(D)を貼ります。
※カバーボード(段ボール)は
取り外さないで下さい。

3

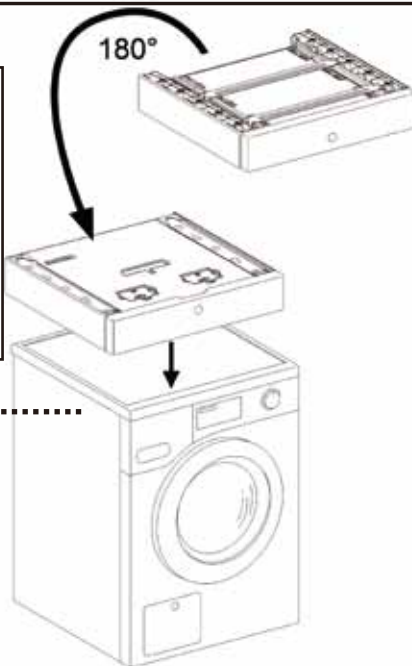
2段積みキットと洗濯機のフェイスパネル面合わせ



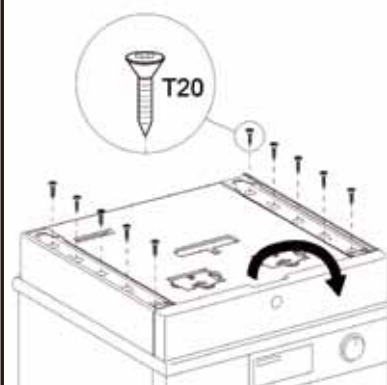
2段積みキットを図のように表向きに戻し、洗
濯機に載せます。

2段積みキットと洗濯機のフェイスパネルの
前面を合わせます。

※カバーボード(段ボール)は取り外さないで
下さい。

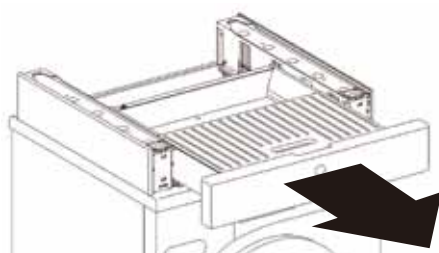


4

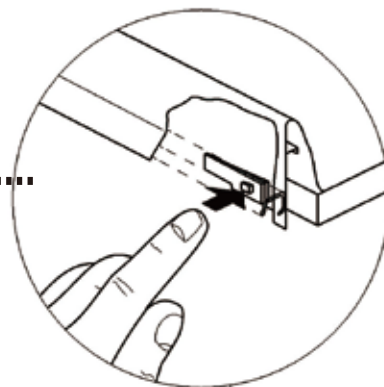
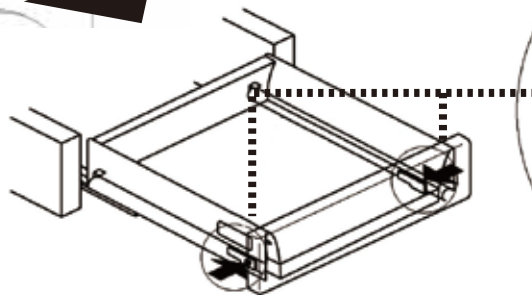


図のように2段積みキットの10箇所を固定
ビス(E)で固定し、カバーボード(段ボール)
を取外します。

5

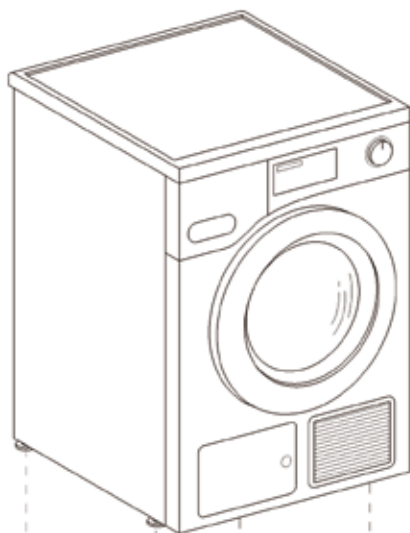


内引出しを押し、前に引き出します。次に、図のように左右の
ツッパを押し、収納引出しを上へ持ち上げ、取り外します。

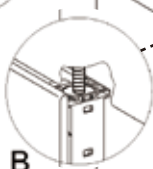


6

矢印の方向へ乾燥機の脚を2段積みキットのホルダーに滑らせながら設置します。



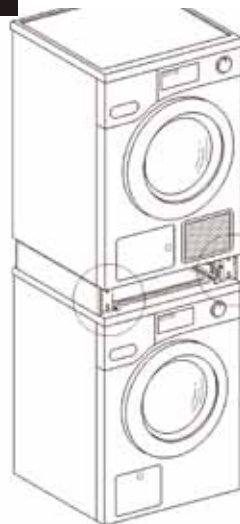
A



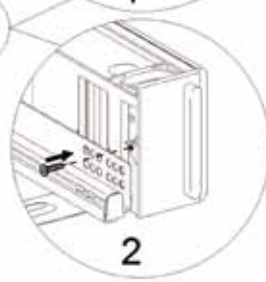
B

後脚(A)と前脚(B)
が図のように、ホル
ダーに納まるように
設置します。

7



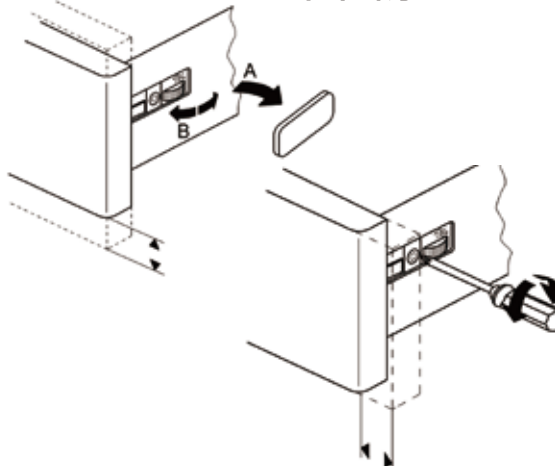
1



2

2段積みキットの左右に化粧プレート(C)を固定ビス(F)で
取付け、収納引出しをもとに戻します。必ず、収納引出しが
しっかりと固定されていることを確認して下さい。

■フロントパネルの位置調整



サイドカバーを外すと調整ダイヤルがあります。調整ダ
イヤルでフロントパネルの位置を調整することが出来ま
す。ダイヤルでフロントパネルを上下調節、ドライバーで
フロントパネルを左右に調節することが出来ます。

給排水と電源の接続

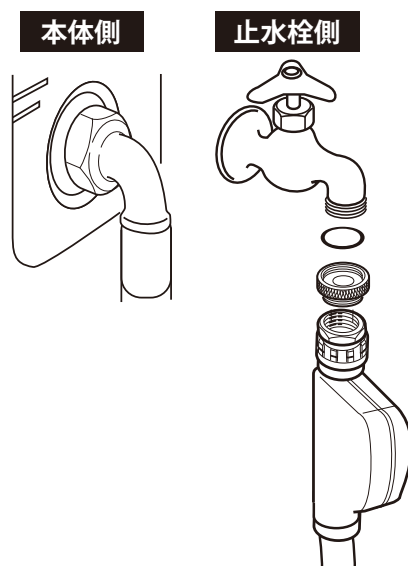
- 前述の「電気工事」「水道工事」に従って準備した止水栓・排水管・コンセントに、給水ホース・排水ホース・電源コードを接続します。
- キャビネット内に設置する場合は、キャビネットに本体を押し込む前にすべての接続を行ってください。

■ 給水ホースの接続 (W1洗濯機)

- 本体と給水ホースの接続にゆるみがないことを確認してください。
- 給水ホースを止水栓に接続します。吐水口が1/2おねじの場合、同梱の給水ホースアダプター (1/2→3/4) を使用します。3/4おねじの場合はアダプター不要です。



吐水口が下向きであることを確認してください。横向きの場合、呼び径 1/2 の平行おねじエルボ (同梱されていません) を使用してください(「水道工事」参照)。

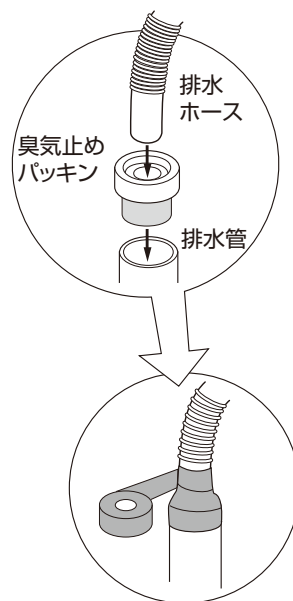
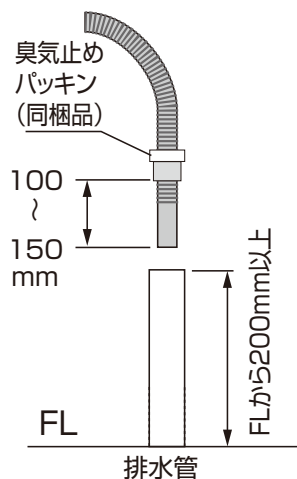


■ 排水ホースとの接続 (W1洗濯機の場合)



排水ホースは絶対に切らないでください。

- 排水管に臭気止めパッキン (同梱) を差し込みます。
- 排水ホースを100～150mmの深さまで差し込みます (差し込みすぎに注意)。中性洗剤を塗ると差し込みやすくなります。
- 排水ホースを防食テープで固定します。



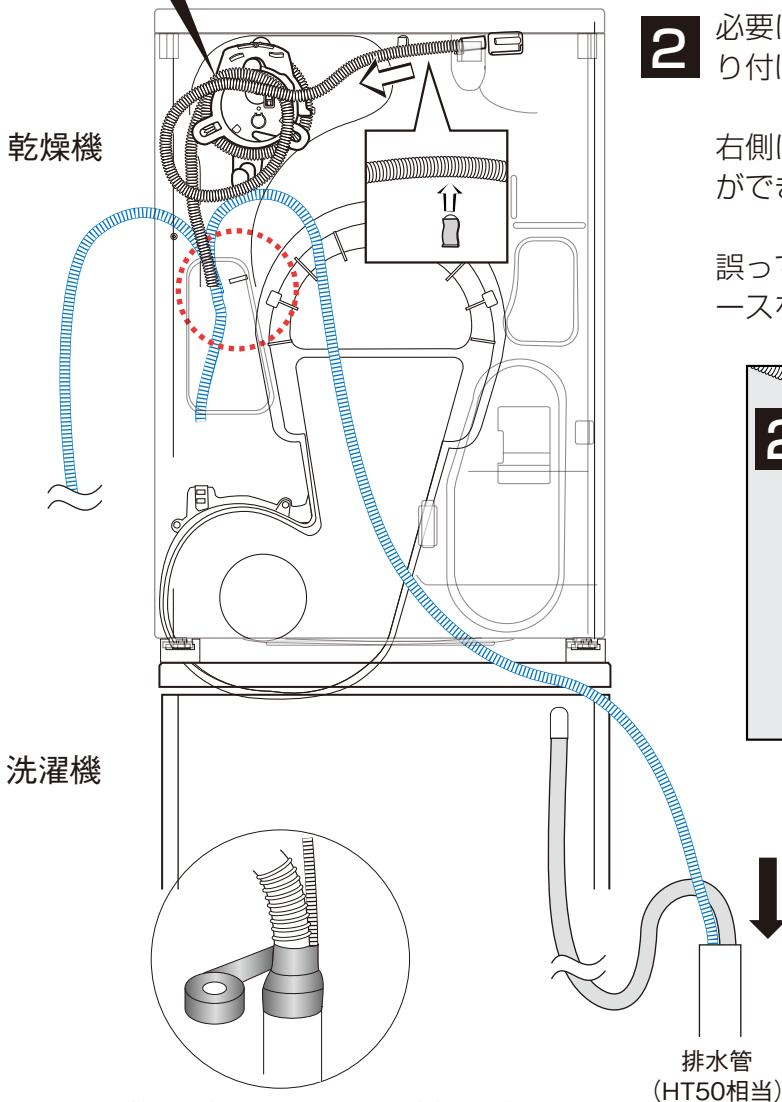
排水管からの臭気の立ち込みや、排水ホースの抜けによる水漏れを防止するため、臭気止めパッキンと防食テープでしっかり隙間を塞ぎ固定してください。

■T1衣類乾燥機の排水

乾燥時に生じる水は、乾燥機の背面にある排水ホースを介して排水タンクの中へ集められます。水は排水ホースを排水管に接続することで、直接排水させることができます。この場合、排水タンクに集められた水を空にする作業が不要になりますが、スチームケアプログラム使用の際には精製水を準備する必要があります。



誤った取り扱いによる排水ホース破損の恐れがあります。排水ホースが破損すると、水が漏れ出して破損が発生させる場合があります。排水ホースを強い力で引っ張ったり、伸ばしたり、ねじったりしないでください。



3 洗濯機の排水ホースと一緒に、排水管に接続します。水漏れに注意し、接続はビニルテープで固定してください。

1

排水ホースを接続部から引き抜きます。

ホースをまっすぐにし、慎重にホルダーから引き抜きます。

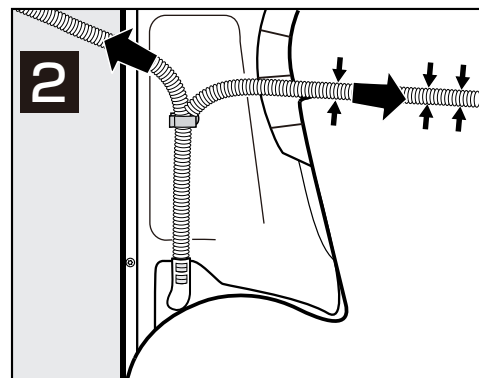
ホースに残った水を容器に流し入れます。

2

必要に応じて、ホースを右側または左側に取り付けます。

右側に取り付けた場合、溝に固定させることができます。

誤ってねじれないように、下のホルダーでホースを支えます。



注意

- 水漏れ、排水不良になることがありますので、ホースは付け根が折れ曲がりすぎないようにくれぐれも注意してください。
- 排水口からの臭いの逆流を防ぐため、排水管の中にトラップを設けてください。

■電源の接続

- 電源コードをコンセントに差し込みます。

※W1洗濯機は、このあとの試運転の際に、「設定」-Further programmes - 設定 - 周波数で周波数50Hz（東日本側）または60Hz（西日本側）を選択する必要があります。出荷時は50Hzに設定されています。

試運転



- 下記の手順で試運転までを行い、水漏れや振動、異常音がないこと、正常に排水することを確認してください。
- 詳しくは、取扱説明書の「初めてお使いになる前に」の手順に従ってください。

■W1洗濯機

- ・ 保護フィルムとステッカーを取り外す
- ・ 洗剤カートリッジと排水ホースをドラムから取り出す
- ・ 電源をオンにする
- ・ 言語の選択
- ・ Miele@homeのセットアップ(「後程セットアップ」可能)
- ・ 輸送用ボルトを取り外す
- ・ TwinDosの設定



※周波数の設定:Further programmes - 「設定」-「周波数」で、お住まいの地域に合わせて50Hz(東日本側)または60Hz(西日本側)を選択してください。

- ・ 試運転の開始

ディスプレイの指示に従って、止水栓を開け、ドラムを空にしてコットン90℃プログラムを運転します。約2時間かかります。

■T1衣類乾燥機



※設置後の休止時間

ヒートポンプ式衣類乾燥機のため、コンプレッサーを搭載しています。機器は不具合を起こす場合があるので、製品設置後、1時間は機器の電源を入れないでください。

- ・ 保護フィルムとステッカーを取り外す
- ・ 電源をオンにする
- ・ 言語の選択
- ・ Miele@homeのセットアップ(「後程セットアップ」可能)
- ・ 試運転の開始

※合計運転時間が1時間以上になるまでは、電源を入れる度に初期設定画面が表示され続けます。

- 乾燥する衣類がない場合

Further programmes/温風/60分に設定しプログラムを開始してください。

※設定方法については取扱説明書でご確認ください。

- 乾燥する衣類がある場合(3kg以上)

Cotton(コットン)プログラムを開始してください。